

2023年度 卒業生調査(卒後1年目、卒後3年目) 集計結果

実施日：2023年12月15日配信

締切日：2023年12月28日

方法：Formsによるアンケート調査（メールによる説明と協力依頼）

対象：17期生（卒後3年目）、19期生（卒後1年目）

	卒業生数	回収数	回収率 %
17期生（卒後3年目）	120	24	20.0
19期生（卒後1年目）	116	40	34.5

問1

現在の職種

	17期生 n=24	19期生 n=40
看護師	23	40
保健師	1	0
助産師	0	0
その他	0	0

問2

現在配属されている領域

	17期生 n=24	19期生 n=40
急性期	17	30
慢性期	1	2
老年看護	1	2
小児看護	0	3
母性看護	0	0
精神保健看護	0	1
在宅看護	0	0
公衆衛生看護	1	0
その他	4	2

問3

本学では卒業時に身につけてほしい能力をディプロマポリシーを掲げています。臨床の現場でこれらの能力を発揮できているかお答えください。

【17期生】

n=24

	非常にそうだ	かなりそうだ	まあまあそうだ	あまりそうでない	全くそうでない
人間の尊厳と権利を擁護する力	4	7	13	0	0
自己教育力	3	8	13	0	0
チームで働く力	4	12	8	0	0
問題解決力	0	12	11	1	0
看護の専門性を探究する力	0	4	16	4	0

【19期生】

n=40

	非常にそうだ	かなりそうだ	まあまあそうだ	あまりそうでない	全くそうでない
人間の尊厳と権利を擁護する力	8	16	16	0	0
自己教育力	4	24	12	0	0
チームで働く力	5	22	12	1	0
問題解決力	2	24	14	0	0
看護の専門性を探究する力	4	20	15	1	0

問4

ディプロマポリシーで示される能力以外に、看護専門職として必要となる力は【どのような力】だと思いますか（理由も）。あなたが働いている現場の状況をふまえてお答えください。

さらに、その力を身につけるために【どのようなことを学ぶとよい】と思いますか。

【17期生】

アセスメント能力、急変対応、看護技術

理由：

看護をする上で身につけていきたいから。

専門学校出身の学生は結構看護技術を実践されてたので、入職してから差があったと思ったため。

どのようなことを学ぶとよいか：

看護記録や日々のアセスメントを深く学ぶ。

実習等で実際に患者さんに対して援助する機会をもっと増やすべきだと思います。

まずは正常な状態（患者の普段の状態）を把握し、緊急を要するのはどういう状態の時なのかを知っておく。

患者さんのニーズを会話から引き出す力、患者に寄り添う力、先を見通す力、臨機応変に対応する力

理由：

退院後の環境や患者さんの性格はそれぞれ違うため

患者の症状悪化予防につながるため

退院へ向けて日々の看護をチーム内で引き継ぎ、継続していくことが大切だから。

病気を持ちながらも地域で暮らす人が多いので、その人の思いにできる限り沿えるよう様々な関係機関と連携をとりながら支援のあり方を検討していることが多いため。

どのようなことを学ぶとよいか：

患者の既往などの病態生理、日々の学びを復習、継続看護。

ディスカッションだけでなく、会議を開くにあたるまでの準備等を学ぶと良い。

職場によっては、自分が会議を開くこともあるので、学生の頃から学べたらいいと思う。

コミュニケーション能力

理由：

患者だけでなく、先輩看護師、医師その他のスタッフと連携していく必要があるから。さらに困った時、壁にぶつかった時に自分自身の思いや考えをわかりやすく相手にわかってもらう伝え方を身につける必要があると思う。

チームで働く力にも関係してくるとは思いますが、患者や患者家族、多職種とのコミュニケーションを適切にかつ円滑に行うことで、患者や家族のニーズを把握し、多職種で共有することができ、より良い医療や看護提供につながると思います。

的確に伝える力が必要だと感じたため

どのようなことを学ぶとよいか：

心理学

社会人としての言葉遣い、コミュニケーションのとり方。

また、患者や家族の立場に立って考えられるように病態についてもしっかり理解する必要があると思います。

伝えたいことを簡潔にまとめ、分かりやすく伝えるためのディスカッションやカンファレンス

社会人としての常識的な行動、報連相ができる力

理由：

人に接する仕事なので社会人としてのマナーを守ることは患者さんや他のスタッフからの信頼を得る第一歩になると思った。また、他職種との連携が大切なので、報連相が必要時にできる力も必要となってくる。

どのようなことを学ぶとよいか：

言葉遣いや人としての常識ある行動を仕事を通して学ぶ

自分が考えていることを相手に簡潔に分かりやすく発信する力

理由：

忙しい中で、簡潔に短く自分の考えや患者の状態を伝えないといけない場面が多く、簡潔にと指導を受けることがあったから。

自分の考えをカンファレンスで話したり、急変などがあれば報告をしなければならないため、他職種や他のスタッフと話す機会が多いから。

どのようなことを学ぶとよいか：

コミュニケーションについて学習し、実習中からSBARで報告したり簡潔的に伝えられるように意識するなど

周囲の状況を迅速に把握し、自分の役割を考えて行動に移す力

理由：

担当患者の業務(ケアや処置、記録、処理など)を行いつつ、病棟全体の患者の変化に気づき、適切に対応しなければならないため。

どのようなことを学ぶとよいか：

実習等で実際の現場を見ることで、看護師の仕事内容や病棟での業務を学んだり、クリティカル看護や災害看護等で有事の役割分担について考える機会を増やしたりすると良いと思います。

やり遂げる力

理由：

看護職は継続して学び続ける能力が必要

どのようなことを学ぶとよいか：

一年を通して何かやり遂げるようにする

適切な学習選択やタイムマネジメント、相談報告へ繋げることができる能力

理由：

提示される課題に対して各個人が自分なりのやり方で対応すること、自己評価や今後の目標を参考に研修や講習を選択して受講すること、看護師として働き始めた後も自己研鑽を求められることを踏まえて、自分個人の能力向上のみならず、自分がどこまでできるか、現状の自分はどのような状態かを把握して必要に応じて他者へ報告相談することが必要になる場面が多くあったため。自分は自己分析や自己完結内での見通しなどは考えるのが得意であったが、自身の中にある意見や思い、状況を他者へ説明する能力が低く、指導を受ける関係や協働の場面でうまくいかないことがあった。

どのようなことを学ぶとよいか：

医療関係の知識や技術と並行して、物事の情報伝達や相談の仕方など社会的スキルも意識して学ぶと良いかと思えます。また、普段から自分の意見や思い、状態を他者に述べる練習をできると良いと思えます。

【19期生】

自己教育力、観察力

理由：

臨床に出て、病態から症状を出すことはできても、症状から病態を考えることが難しいと思った。また、それが瞬時に出てこないのではおさら重要であると感じた。

どのようなことを学ぶとよいか：

常日頃から意識して考えて勉強に励むべきかと思えます。

発信する力

理由：

仕事をする上でコミュニケーションは必要不可欠で1年目は特に自分の考えていることや思いを先輩や主治医、患者さんに伝えることが大切で私自身苦手でもあるから。

できる、できない、分かる、分からないなど今自分がどこで躓いているのか、何に困っているかを発信する力が一年目ではとても必要だと思いました。

どのようなことを学ぶとよいか：

グループワークで積極的に話をする。

自分自身を振り返る時間を作る

いつも自分の考えを持つようにしていると役にたつと思いました。

コミュニケーション能力

理由：

看護というより、看護師間のコミュニケーション能力が大事です。そのために先輩に合わせる力が大事です。

どのようなことを学ぶとよいか：

バイトやサークルで色々な人と関わる

優先順位をつけて行動する力

理由：

常に多重業務で優先順位を考えて行動しなければならないから。

日々の業務では、様々な多重課題が出てくるので、今1番にすべき事は何かを考えながら動くことが大切だと思う。

業務が重なることが多く、対応できるようになるまで時間がかかったから。

多業務の中抜けがなく、決められた時間内に行なっていくことがとても大変だからです。

どのようなことを学ぶとよいか：

優先順位を考えて、スケジュールを立てて予測的に行動していく。

多重業務に対する計画性を学ぶ

課題をするだけでなく、内容もしっかりと深い内容になるように課題を期限内にしていこう

先輩の一日のスケジュールの立て方を見る。分からないことは、すぐ聞く。

チームの一員として報告・連絡・相談する力

理由：

自分1人で解決は難しいことがたくさんある。自分自身も患者自身も不安になると思うため、何か疑問点や不安なことがあればすぐに先輩看護師に報告、相談し解決することが大切だと思った。

リーダーやチームスタッフとのコミュニケーションが重要な場面が多いから。

看護師だけでなく医師などにも患者の状況を報告する場面があり、なかなか最初は医師に相談報告が出来なかったから。

どのようなことを学ぶとよいか：

どのようなことを報告連絡相談したらいいのかどのように発言したらいいのか考えておくとうれしいと思う。また病態に関する知識も必要と思う。

視野を広げて、相手にとってもより円滑に報告、連絡、相談をする力

チーム看護としての重要性を学ぶ際に、教員に対して自分の考えやアセスメントを踏まえてこういう対応をして欲しいなどといった相談を行う。

感情を汲み取りニーズに応えられるように努力する力

理由：

突然何らかの苦痛、疾患を発症し救急外来に受診している患者さんがほとんどである。患者さん本人や家族も不安で来院した主訴を取り除いてほしい、原因を知りたいという気持ちで来ている。

看護師はその訴えに対して患者さんやその家族と関わり関係を築いた上でニーズを考え応えられるように関わる姿勢が大事であると思うから。

どのようなことを学ぶとよいか：

色んな方と関わる。特に日赤の周りには地域の高齢の方が多く住んでいるのでその方との交流をもう少ししておけばよかったなと思った。また、障がいを持った方との関わりは難しいと思ったのでそういった方との関わり方も学ぶと良いと思った。

集計結果・評価

【属性】

17期生(卒後3年目)および19期生(卒後1年目)の属性として、現在の職種はほとんどが看護師であり、17期生は保健師が1名であった。配属先は、卒後1年目は40名中30名が急性期で、その他に慢性期、老年、小児、精神、その他2名であった。卒後3年目は24名中17名が急性期で、その他に慢性期、老年、公衆衛生、その他4名であった。

【DPの能力について】

ディプロマポリシー(DP)の能力が現場で発揮できていると肯定的な回答が多かったDPの能力は、卒後1年目、卒後3年目ともに【人間の尊厳と権利を擁護する力】【チームで働く力】であった。肯定的な回答が少なかったDP能力も、卒後1年目、卒後3年目ともに【看護の専門性を探究する力】であった。卒後1年目と卒後3年目ともに、急性期の病棟や外来等でチームの中でさまざまな状況に対処している一方で、倫理的課題や意思決定支援等に関わる場面を通して人間の尊厳と権利を擁護する力やチームで働く力がより発揮されていると推察される。

【ディプロマポリシーで示される能力以外に、看護専門職として必要となる力とは】

卒後1年目と3年目をあわせ「優先順位をつけて行動する力」「観察力やアセスメント能力」「チームの一員として報告・連絡・相談する力」という回答が重複していたものの、これらはDPが示す力(チームで働く力、自己教育力)にすでに含まれている。

その他の意見に、「コミュニケーション能力」「発信力、発言する力」「やり抜く力」があった。これらは、社会人基礎力(経済産業省,2006)にある「チームで働く力」の能力要素としてあげられている。「発信力、発言力」については、チームの中で発信力がなければ協働することは難しいという意見が述べられていた。

【まとめ】

今回の卒業生調査は同窓会のメールに加え、就職先アンケートを郵送する際に卒後1年目と卒後3年目の名簿とQRコードをつけた調査票を配布した。卒後1年目、卒後3年目の回収率が20~40%まで改善した。また、アンケートの1つ1つの項目に丁寧に記載していただき、卒業生の現状を把握することができた。今後も引き続き就職先アンケートと一緒に調査票を配布することを継続する。今回就職先アンケートに配布した際に、卒業生数名が休職もしくは退職しているとの情報をいただくことができた。今後卒後も継続して支援していくことが重要である。また、卒業生の回答を現在の在籍学生に伝えることも今後の看護職としてどのような準備が必要なのかイメージできるのではないかと考えた。